

わが子のあゆみ



せき し り つ みどり が おかちゆう がっこう
関市立緑ヶ丘中学校

2020.11
No.463
初冬号
第72巻1号

11

▼ 黙働掃除 ▼

緑中3本柱の一つ「掃除」を平成25年に「黙
“動”掃除」と名付け、15分間の掃除を黙々とし
るようになりました。その後、「動く」から「働
く」へ意識を変え、「黙“働”掃除」となりました。
現在は、職員も含め約700人が15分間、シー
ンとした中で黙々と働いています。



地元企業と連携したナイフ制作

「かひまつちまういっかひまつちまうがっこう」

笠松町立笠松小学校

住所 〒501-6073
羽島郡笠松町下新町87番地
TEL 0581-388-0101
児童数 220名



《はじまり》

〈地域の自然や風土〉
笠松町は岐阜県の南に位置し、北は岐阜市、西は羽島市、東は各務原市に隣接しています。濃尾平野を流れる木曾川に沿った校区には「みなと公園」が整備されており、美しい自然やかつての美濃郡代笠松陣屋跡など多くの史跡があり、岐阜県指定重要無形民俗文化財の「大名行列お囃し」は、今も大切に引き継がれています。また、名馬オグリキャップで知られる「笠松競馬場」もあり、地域の皆様に親しまれています。



校舎



中庭のキリシタン灯籠とウサギ



道徳科授業の様子



生き物の世話(朝の水やり)



笠松町あいさつ運動(笠松駅にて)



掃除の様子



安全安心パートナーの皆さんの見守り



「夢の学びフェスタ」(TV番組制作の講座)



ふれあいドリルタイムの様子



学校の教育目標

みんなのしあわせを考えて
豊かな心で ねばり強く やりぬく子
よく考える頭 やさしい心 進んで働く手足

②根気よく続ける生き物の世話

「あいさつ運動を終わります〜」くすのき委員のかけ声で、子どもたちは、自分の一鉢への水やりやウサギの飼育に向かいます。主に二年生はアサガオ、二年生はトマト、三年生はホウセンカ、四年生はヘチマ、五年生は小菊、六年生は葉牡丹を一人ひとりが育てます。

日々、植物や動物の世話を続けていくことで、生命を尊重する心が着実に育まれてつづいています。高学年の児童は、普段お世話になっている地域の方々へ感謝の言葉と共に、大切に育てた植物を贈る活動を進めています。

③力一杯行う掃除

毎月一回の「クリンタイム」の日には、朝の十五分間で地域の民生委員の皆さんと共に、草が伸びているところを見つけて草引きをします。子どもたち自身でも、JRC委員が呼びかけ、「朝ボウ」として毎週実施しています。また、六年生は毎日「きらり活動」として、玄関周りの落ち葉を掃いたり、全校の下駄箱付近や廊下をきれいにしていきます。

掃除の時間は、全校児童が仕事を分担して、「一人ひとりが精一杯取り組む姿が定着してきており、日々の継続の中で、働くことを厭わない姿勢と心が育まれてきています。

ださったりするなど、これを機会に地域の中でもあいさつの輪が広がっていくことが期待されています。

《最後に》

保護者や地域の方々への感謝

昨年度末からの「新型コロナウイルス対応」により、笠松小においても様々な学校行事の規模縮小等を迫られており、「コロナ対応や熱中症対応等に留意しながら、子どもたちは日々の学校生活を可能な範囲で進めています。そんな中でも、保護者や地域の皆さんが手作りのマスクを届けてくださったり、熱中症対策にと塩分タブレットを準備していただいたりするなど、「頑張ってくださいね」というメッセージと共に、大変心強い支えとなっています。また、PTA会長から「風評被害防止のための呼びかけ文書」を配布していただき、運営委員の皆さんも不測の事態への協力体制を整えていくくださいます。感謝の気持ちを忘れず、今後の学校生活を進めていきたいと考えています。



「虹の手紙」プロジェクト
医療従事者の方からのお礼状

学校のたからもの② 保護者や地域の方々 に 支えられている『学校生活』

①ふれあいドリルタイム

…CS学習創造パートナー部会
毎月一回の「ふれあいドリルタイム」の日には、朝の会の後の「ドリルタイム」に取り組みむ子どもたちの様子を見守りながら、「できたね！頑張ってるね！」と声をかけてくださる保護者や地域の方がみえます。

漢字や計算以外にも、高学年では「天声子ども語の要約づくりや感想まとめ等、各学年に応じた学力を高めるための活動を進めています。

②登下校の見守り

…CS安全安心パートナー部会
「おはようー！おかえりなさいー」。毎日の登下校を見守って下さる「安全安心パートナー」の方が、校区内には大勢みえます。雨の日や暑さが厳しい日等にも、日々子どもたちに声をかけてくださり、登下校中の安全が保たれています。けがや体調がよくない子がいると、学校にお知らせいただけ、すぐに対応ができることも大変ありがたいです。

③夢の学びフェスタ

…CS自立共生パートナー部会
例年秋には、自立共生パートナーの皆さんが主催する「夢の学びフェスタ」が実施されます。地域の方を講師として、消防士体験や紙飛行機づくり、TV番組の制作体験やカプトムシを通して虫の役割を考えるなど、約二十の講座から興味のあるものを選んで、親子で受講します。岐阜工業高等学校の高校生の皆さんが講師として参加していたり、笠松中学校の生徒の皆さんがボランティアとして運営を支えてく

「あいちけんしゅうしつこけいしつこけいしゅうがっこう」

八百津町立錦津小学校



学校の教育目標

自ら考え やりぬく たくまじい子

住所 〒505-0303 加茂郡八百津町伊岐津志1806
TEL 0574-4310167
児童数 116名



〈地域の自然や風土〉

錦津小学校は、八百津町の西部、木曾川の南にあります。海拔二〇m前後の河岸段丘に沿って住宅や農地が広がり、大変自然環境に恵まれた地域です。蘇水狭の美しい景観を望む蘇水公園では、ボートやカヌー、球技などのスポーツを楽しむことができます。また、校区に愛知用水の取水口があり、愛知用水が結ぶ縁で愛知県の篠島小との交流が二十五年間続いています。

八百津町は、第二次世界大戦中、ユダヤ人へのビザ発給により約六千人もの尊い命を救った杉原千畝氏の「人道精神」を大切にしました。本校でも、仲間を思いやる心を大切にしています。



校舎



互いを気づかうソーシャルディスタンス

学校のたからもの①

【あいさつ・交流】でつながる

子どもたちは小高い丘に建つ学校をめざして日々坂道を通います。入学当初は息を切らせながら登る一年生も、数カ月も経つと力強い歩みで登校できるようになります。そんな錦津小の一日は、元氣一杯のあいさつで始まります。錦津保育園との交流も大切にしています。

毎学期、一年生は年長の園児を学校に招待し、共に活動します。小学校での生活が楽しみになるような学校紹介をしたり、手作りのおもちゃで遊んだりします。また、五年生は保育園訪問や入学説明会でペア遊びなどを行い、入学前からつながりを育んでいます。

錦津小と愛知県の篠島小との交流は愛知用水が結ぶ縁で平成八年度に始まり、今回で二十五年目を迎えました。毎年六月の終わりには、本校の五年生が篠島を訪れ、海の体験を楽しみます。そして九月には、篠島小の五年生が八百津町を訪れ、カヌー体験など八百津町の特色ある活動を満喫します。この交流活動を通して、両校のつながりがとても深まりました。



篠島小の子とつながるカヌー体験



小学校で待ってるよ
5年生の保育園訪問(昨年度)

学校のたからもの②

【だれかのために働くこと】でつながる

八百津町ゆかりの杉原千畝さんの生き方を通して、子どもたちは「だれかのために進んで動く」ことの値打ちを学びます。五年生は篠島研修の機会に「杉原千畝記念館」を見学します。千畝さんがユダヤの人々のために「命のビザ」を何枚も何枚も書いた功績を学ぶことを通して、自分自身を見つめ直し、だれかのために進んで行動する人道精神を大切に生活しています。

美しい環境も人の心をつなぎます。環境美化委員が中心となり花壇の世話をしします。給食センターから譲り受けた肥料を混ぜて土作りをしたり、小さな芽をポットに移したりするいろいろな体験を通して、美しい環境が整う過程には、様々な人たちの献身的な努力があることを子どもたちは学びます。

学校のたからもの③

【良さを認め合う】でつながる

全校で歌う「ありがとうの花」は歌詞のとおり感謝の心が「笑顔の花」を咲かせます。すべての教室には「ぼかぼか言葉」のコーナーがあります。また、例年児童会が中心となり、全校一丸となって友だちの良さを認め合う活動を行っています。正面玄関にあるポストにはその日のきらりと輝く仲間への感謝のカードがたくさん集まります。放送で紹介されると、書かれた人も書いた人も穏やかな笑顔に包まれます。互いを大切にすることが活動を通して、思いやりの気持ちが全校や地域に広がっていきます。



教室の「ぼかぼか言葉」コーナー

《最後に》

これからも錦津小学校では、

○【あいさつ・交流】でつながる

○【だれかのために働くこと】でつながる

○【良さを認め合う】でつながる
そんな姿づくりに精一杯努めながら、「思いやりの心」を「層育みたい」と願っています。

平和への願い
リトアニアへ



杉原千畝記念館
決断の部屋(昨年度)



福祉の心でお花をどうぞ

「なかつがわしりひるかわしきつがし」

中津川市立蛭川小学校



学校の教育目標

かしこく あかるく たくましく

住所 〒509-18301
中津川市蛭川2298-1
TEL 0573-4512009
児童数 191名



〈地域の自然や風土〉

明治六年「勤王義校」として開校し、明治九年に蛭川小学校と称されました。その後平成十七年に中津川市と合併し、中津川市立蛭川小学校となりました。緑豊かな自然に囲まれ、心温かい人々に支えられて、子どもたちは元気いっぱい育っています。学校設立当時から大切にされてきた「勤勉^{けんめん}直^{ちか}」の精神は脈々と受け継がれ、現在に至っています。

学校のたからもの①

ひるかわの歴史と自然をきざむ
「蛭川かるた」

蛭川には、豊かな自然と長い歴史があります。平成十七年の市町村合併の際、蛭川村の歴史・文化・自然などのよさを後世に残すために、当時のPTAが主体となって「蛭川かるた」が制作されました。かるたの札には植物や川、郷土のために尽くした偉人などが詠まれており、かるたを通してふるさと^{ふるさと}のよさを知り、郷土愛を育み、たくましく豊かに生きぬい

学校のたからもの②

ふるさと学習
てほしいという願いがこめられています。毎年六月と十二月には異なる学年から構成される縦割りグループで競い合う「かるた大会」が開かれ、子どもたちにとってたいへん身近な存在となっています。また、異学年からなる集団での活動であることから、下級生も札を取ることができるよう工夫をしたり、励まし合ったりするなど心の成長にも大きな役割を果たしています。

ふるさと学習

蛭川小学校では、総合的な学習のテーマを「ふるさと学習」として取り組んでいます。三年生では「蛭川じまん」について学習し、特に毎年四月中旬に行われる「杵振り祭り」で杵振り踊りを披露するため、神社や祭りの歴史についてお話を聞いたりしながら調べ学習を進めるとともに、三年生の冬から踊りの練習に励んでいます。練習には、地域の方にご指導をお願いし、ご協力いただいています。四年生では学校の近くを流れる和田川について学習します。七月には和田川でカワゲラウォッチングを行い、地域の方にお話を聞いて



校舎



かるた大会



蛭川かるた



杵振り踊り(3年生)

自然の美しさと地域の大切な資源であることを学びます。五年生では、「米作り」について学習するとともに、学校近くの水田をお借りして実際にもち米「きねふりもち」を育てています。田植えや稲刈り、脱穀の作業には地域の方に助けていただき、初めての作業にも楽しく取り組んでいます。秋には収穫したお米で餅をつき、作業にご協力いただいた方たちを招待して「収穫祭」を行います。六年生では、「蛭川の偉人」について学習します。蛭川村のために尽力した人々について調べたり、地域講師の方からお話を聞いたりすることを通して、郷土の歴史を知り、郷土への思いを育んでいます。「蛭川かるた」には、ふるさと学習の題材も数多く詠まれており、ふるさと学習の柱の役目も果たしています。



蛭川の歴史(3年生)



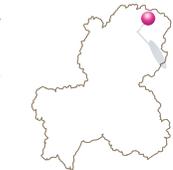
カワゲラウォッチング(4年生)



米作り(5年生)

「たかやまじりつほくりやちゆうがうじ」

高山市立北稜中学校



住所 〒506-1317
高山市上宝町本郷652
TEL 0578-86-2254
生徒数 733名

地域の自然や風土

本校は高山市の北東部に位置し、北アルプスの麓にありま
す。平成十七年一月に高山市と合併するまでは、吉城郡上宝村
の中学校として本郷中学校と栃尾中学校の二校でした。現在
中学校は統合し北稜中学校となり、小学校は本郷小学校、栃
尾小学校の二小学校一中学校の校区です。広大な面積が特徴
で、栃尾小学校区である奥飛騨温泉郷の生徒と、本郷小学校区
のある上宝町の生徒では実に最大で四十キロメートル離れて
います。



校舎



北稜中学校で歌い継がれる大切な宝物「校歌」



学校の教育目標

夢・連帯・感動



学校のたからもの①
北稜中学校で歌い継がれる
大切な宝物「校歌」

校歌制作にあたっての経緯を紹介します。平
成十六年上宝村立北稜中学校として開校する
新しい学校にふさわしい、新しい校歌といっ
とで、生徒への願い、自然、環境、そして当時
校（本郷中学校、栃尾中学校）が合唱に力を入
れて取り組んでいることを踏まえて混成四部
合唱の校歌が誕生しました。

作詞の阿部恒憲氏は、生徒との交流を行
いながら、北アルプスの自然風景、生徒の合唱を
もとに詞を考えられました。作曲は、校区でペ
ンションを営む平川治氏の学友で、校区にも何
度も訪れたことのある日本のコーラス界では
有名な松岡由美子氏に依頼しました。
本校の校歌には、他校にない特徴が二つあり
ます。

一つ目は、三番の英語の歌詞です。当時、上宝
村ではGRAM、カナダ研修をはじめ独自でAL
Tを持つなど英語教育に力を入れていました。
これからの子どもたちに郷土の曲を英語で歌
うことができるようにとの願いから、三番を英
語の歌詞としました。

馬の雪形が現れた笠ヶ岳
(田植えを始める目安とされている)



北稜祭に向けての全校練習
(令和元年度)



市の音楽会で校歌を披露



日々の合唱練習(令和元年度 1年生)



日々の合唱練習(令和元年度 2年生)



日々の合唱練習(令和元年度 3年生)

二つ目は、アカペラです。指揮者がハーモニカ
で出だしの音をとり、それを確認して歌う。今
までにない校歌を創るコンセプトによって、ア
カペラの曲となりました。
校歌は、毎年、市の中学校音楽会では必ず披
露するなど、生徒にとっては、自信と誇りをも
つことができるものとなっています。年度初め
は、合唱委員会が中心となって、一年生に校歌
を教えます。初めは英語の歌詞の意味すら分
からない一年生も、歌詞の意味を学びながら、
少しずつ豊かな表現で歌うことができるよう
になっていきます。秋に行われる北稜祭では、
合唱練習に励んだ成果を、仲間、保護者、地域
の皆さんに披露しています。
昨年度はジャズ演奏者とともに、ジャズ風に
アレンジした校歌を披露しました。また、二月
の三年生を送る会では、指揮者の三年生 沖本
旺次郎さんが「北稜中の校歌は、アカペラで、音
楽会で校歌を歌う学校は他にありません。北
稜中の校歌を聞きたいと言ってくれる人もた
くさんいます。これからも素晴らしい合唱を創
り上げてください」と後輩へ熱い思いを語りま
した。一、二年生は、先輩から校歌への願いを引
き継ぎ、自然豊かで四季折々に表情を変える
広大な北稜校区を思い浮かべ日々合唱に励ん
でいます。
今年度は、コロナ禍のため、今までのよう
な形で練習を行うことができませんが、これか
ら合唱(校歌)を通じて、仲間と共に、よりよ
い姿へ変化し、進化し続けていくことを目指し
ていきます。

わが家の宝物

わが家の宝物について考えたとき、浮かんできたものは「本」である。この間、娘が「7年目のランドセル」という本を図書館で借りてきて読んでいた。この内容が、小学四年の国語の教科書に「ランドセルは海を越えて」という題名で掲載されていることも教えてくれた。小学校を卒業したら、自分のランドセルにたくさんの可愛いノートや文房具を詰めて、アフガニスタンへ送るのだと言う。日本から遠く離れた地で、娘のための役目を終えたランドセルが、再び誰かのランドセルとなるのだ。その誰かにとって宝物となり、七年目の再スタートをきる。こんな素晴らしい活動があることを、私も初めて知った。わが家は皆、読書が好きだ。多くの本で得た知識や発見、想いが蓄積し、豊かになんて生きていけたら、その人生こそが宝物かもしれない。たった一冊の本との出会いが、その後の人生を左右するきっかけとなったり、癒されることもある。これからも、本とのつながりを大切にしていきたい。



わが子のあゆみ

2020.11 No.463 初冬号



1 表紙 関市立緑ヶ丘中学校
1 学校のたからもの

笠松町立笠松小学校
八百津町立錦津小学校
中津川市立蛭川小学校
高山市立北稜中学校

9 わが家の宝物 藤田直也

10 リレーエッセイ⑪ 吉村英晃
特集

「児童憲章」を読む

〜子どもたちのために〜

後藤豊郎・横井由美子
鵜飼高男・古澤英樹

17 「多様性尊重の教育」⑯

みんな、いっしょに 安田和夫

19 保健室ノート 新井美香

21 私の先生④ 八橋諒

23 子育て半生記 足立健司

25 楽しい読み聞かせ⑩

山県市立富岡小学校PTA

27 親の背中⑤ 佐藤智美・佐野武

29 私が出会った1冊の本「続」

石川宗一郎・林路子

31 話そう！語ろう！わが家の約束

小栗浩彰・裁昭人

32 親子ではてな

子の思い 永瀬右京・渡邊志織・萩優奈

33 親の願い 谷口みさき・森栄次

39 教育の窓 後藤 信幸・小川友也

先生！ありがとう！

保護者から先生へ贈る感謝の四〇〇字メッセージ

高砂知明・二村栄子

41 お試しクッキング 岐阜県学校栄養士会

ふるさとの伝承

43 きらり！キッズ！

多治見市立小泉小学校

45 私たちのPTA

岐阜市立長森中学校PTA

機関誌「わが子のあゆみ」

令和2年度 初冬号

第72巻1号 通巻463号

発行/令和2年11月1日 岐阜県PTA連合会

T500・8816 岐阜市菅原町3-3

岐阜県校長会館内

電話/058(266)3257

FAX/058(266)3259

Eメール/info@grfu-pta.jp

ホームページ/ http://www.grfu-pta.jp

編集/岐阜県PTA連合会広報委員会

「わが子のあゆみ」編集部

印刷/サンメッセ株式会社

リレーエッセイ 11

中津川市PTA連合会 顧問

吉村 英晃



すべては子どもたちのために！

「PTAの役員」、できることなら避けて通りたい。大きな役であればなおさら…。私を含め、こんなことを思っている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

我が中津川市立川上小学校は全校児童四十人にも満たない市内最小規模の学校。そんな「田舎」にある学校のPTAは当然会員数も少なく、子どもの在学中に会長？委員長？何らかの役を引き受けざるを得ないという、言わば使命となっています。そんな小規模校にも、何十年に一度という市・県のPTA連合会役員が輪番で回ってきてしまったのです。PTAの知識・役員経験に乏しい私。不安と申し訳無さしかありません。しかし、「やってみよう」と気持ちを奮い立たせたのは、地元を愛し、「子どもは地域の宝」「地域の中で子どもを育てよう」という、地域ボランティア（地元のおじさん、おばさん方）の姿があるからでした。日頃の登下校見守り、学校環境整備奉仕作業、資源回収などなど。PTA会員数を圧倒的に上回る地域ボランティアの参加には、とにかく頭が下がる思いでいっぱいです。また、保護者の中にもボランティアとして地域に貢献し活躍している人が多く、郷土のために尽くす親の姿や、

地域の方々の姿を見て子どもたちも郷土愛を育むものと信じています。こんな思いで引き受けた市・県のPTA連合会役員でしたが、「すべては子どもたちのために」を合言葉に、子どもファーストでPTA連合会の任務を全うする皆さんの熱意には、これまた圧倒されるものでありました。子どものためでもあります。親同士が学び合うことを実感した一年間。未知なる世界で貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。

今年度はコロナ禍でPTA活動も思うようにいかず、苦難を強いられていることと思いますが、こういった局面こそPTAの存在と力が発揮され、乗り越えて行けるものと祈念しております。

次回は… 大垣市PTA連合会 会長 田中 禎一さん

「児童憲章」を読む

子どもたちのために

一九五一年五月五日、内閣総理大臣 吉田茂は、この日、児童憲章制定会議を招集。全国各都道府県の各会各層の代表二二三名が参集し、三つの基本綱領と十二条の本文から成る児童憲章を制定しました（因みに、本誌「わが子のあゆみ」は、この年の十一月に創刊されました）。

私たち岐阜県PTA連合会は二十年来、「心身ともに健やかで活力ある子どもの育成」を活動目標に掲げ、「すべては子どもたちのために」を標榜して、愛してやまないすべての子どもたちの家庭・地域・学校における、より良い教育環境を求めてきました。

しかし、これまで親や大人、学校が、それぞれの立場や事情を優先し、子どもたちを軽んじてきたことはなかったでしょうか。これまで行ってきたことが、本当に、すべての子どもたちのためになっていたでしょうか。

児童憲章は、六十九年前に制定されたものです。新たな時代、新たな環境で新たな教育が始まる今、立ち止まって読み直し、憲章に込められた精神を確かめて、新たな歩みを進める機会としたいものです。

児童憲章

われらは、日本国憲法の精神にしたがい、児童に対する正しい観念を確立し、すべての児童の幸福をはかるために、この憲章を定める。

児童は、人として尊ばれる。
児童は、社会の一員として重んぜられる。
児童は、よい環境の中で育てられる。

- (1) すべての児童は、心身ともに健やかに生まれ、育てられ、その生活を保障される。
- (2) すべての児童は、家庭で、正しい愛情と知識と技術をもって育てられ、家庭に恵まれない児童には、これにかわる環境が与えられる。
- (3) すべての児童は、適当な栄養と住居と被服が与えられ、また、疾病と災害から守られる。
- (4) すべての児童は、個性と能力に応じて教育され、社会の一員としての責任を自主的に果たすように、みちびかれる。

(5) すべての児童は、自然を愛し、科学と芸術を尊ぶように、みちびかれ、また、道徳的心情がつつかわれる。

(6) すべての児童は、就学のみちを確保され、また十分に整った教育の施設を用意される。

(7) すべての児童は、職業指導を受ける機会が与えられる。

(8) すべての児童は、その労働において、心身の発育が阻害されず、教育を受ける機会が失われず、また、児童としての生活がさまたげられないように、十分に保護される。

(9) すべての児童は、よい遊び場と文化財を用意され、悪い環境から守られる。

(10) すべての児童は、虐待・酷使・放任その他不当な取扱から守られる。あやまちをおかした児童は、適切に保護指導される。

(11) すべての児童は、身体が不自由な場合、または精神の機能が不十分な場合に、適切な治療と教育と保護が与えられる。

(12) すべての児童は、愛とまことによって結ばれ、よい国民として人類の平和と文化に貢献するように、みちびかれる。



児童憲章を読む

岐阜県PTA連合会会長

後藤 豊郎

恥ずかしながら「児童憲章」という名前を、わが子のあゆみの企画を通して初めて知った。教育の専門家や教育に携われる方々なら、耳にされることはあるのだろうが、PTAに携わっていても、いち保護者ということからすれば、多くの保護者にとっても知らない言葉なのではないかと思う。私は原稿を執筆するにあたり「児童憲章」とはいかなるものなのか、調べることからスタートした。

児童憲章が制定されたのは一九五一年（昭和二十六年）五月五日、同年六月に出された各都道府県知事あて厚生省児童局長通知「児童憲章について」によれば、「児童憲章」は、「児童の基本的人権を尊重し、その幸福をはかるために大人の守るべき事項を、国民多数の意見を反映して児童問題有識者が自主的に制定した道徳規範」であり、「児童福祉行政上極めて重要なもの」とされている。更には、「法的責任を有するものではないが…憲章の定める事項の実現に努力されたいこと」とされ「児童憲章の正式な解釈については…おつて作成の上送付せられる予定であるが、それまでは憲章草案準備会の「児童憲章草案の説明」によ

られたいこと」と、まだ準備が整っていないことが伝えられている。正式英文に至っては、関係方面と折衝中とまだ途中経過であることも添えられている。

昭和二十六年というと、「対日講和条約・日米安保条約同日調印」「日本初の民放ラジオ局が開局」「朝日新聞でのサザエさん連載開始」「第一回紅白歌合戦」などもこの年である。

子どもたちを取り巻く状況はいえば、親を戦争で失った子どもは二十四年の段階で約一二・四万人（厚生省「全国孤児一斉調査」S二十三）、青少年犯罪は、少年法犯検挙人員が十六万六四三三人（警察庁「警察白書」）で、戦後混乱期の中で、家族の離散や経済的貧窮といった、やむにやまらず生活のためにやむなく犯罪を犯す「生活型非行」が特徴に挙げられている。子どもの人身売買については、一説によれば五千ともいわれている。

憲章を普及するにあたって、すべての準備が整っていないにもかかわらず、「児童憲章」を普及させるといふ決断に至った背景には、一日も早く子どもたちの安心と安全を確保するという大人たちの意思の表れがあると私は思う。

児童憲章の冒頭には、「すべての児童の幸福をはかるために、この憲章を定める」とされている。続いて、児童は、「人として尊ばれる」「社会の一員として重んぜられる」「よい環境の中

で育てられる」と書かれている。今の私たちがからすれば当たり前のことといえるかもしれない。けれども、当時の社会情勢からすると、戦後の大混乱、復興へ向かう過程のなかでこの憲章の文言は考えられている。大人にとってもまったく余裕のない中での検討であったのではないだろうか。

児童憲章を読みすすめると、「家庭に恵まれない児童には、これにかわる環境が与えられる」「適当な栄養と住居と被服が与えられ、また、疾病と災害から守られる」「個性と能力に応じて教育され、社会の一員としての責任を自主的に果たすように…」「就学のみちを確保され…」、児童憲章を読み進むにつれ、胸が一杯になった。今でこそ、実現できつつあるものも多くあると思うが、当時を考えれば、今すぐに実現できるかと問われれば、「いつか」としか答えようのないものも多く含まれているように思う。しかし、それは責任のない方便ではなく「いつか、必ず実現するから」という強い意志と決意の表れのように感じる。できないから言えないのではなく、明確な目標を掲げて、実現に向けて着実に近づくと、その積み重ねがいつの日か、すべての子どもたちを守り、幸福へと導くことができるということ宣言しているのではないだろうか。

この憲章を読んでとても驚くことがある。昭和二十六年という、今から考えると六十九

年も前の古い文章であるにもかかわらず、今の時代に通じる、新しい感覚のように感じる。当時の大人からすれば、七十年先の問題など想像できるはずもないと思うが、今、学校教育が新しい教育課程によって変わろうとしている世界観を、この時すでに見据えていたかのように思える。

最近では、「責任を「取れない」ではなく、「取りたくない」大人が増えたように思えてならない。完全に整えてからでなければいけない。果たして間に合うのだろうか。昨年は、岐阜県においてもいじめに関わる事故が起きた。未然に防ぐための抑止力は十分だったのか、事故が起きて、その対応はどうだったのか。このことは、時間と共に忘れ去られていはいはがらない。昭和二十六年当時の状況と比べれば、数の上では相対的に課題は少なくなっているかもしれない。しかし、本来、子どもたちをとりまく課題は数の問題ではないはずである。

当時の大人たちの感覚としては、どうだったのだろうか。今と比べると、どこから手を付けなければよいかかわからないほどの状況ではなかったか。考え得る限りの状況を想定し、子どもたちが直面するであろう課題に対して道筋を付ける、誰も見捨てない、そんな思いをもって、「児童憲章」の文言を書かれたのではないだろうか。

すべての子どもたちのための憲章でありながら、その親である私たちがこの憲章を意識することは、専門機関の関係者でもなければなかなか難しく、意識することはないと、思います。それでも、親として子どもの幸せを願う気持ちには誰に強制されたものでもなく、ごく自然に芽生え、子どもの成長を愛おしく思います。私たち人間の本能として、子どもを守り育てていく力がそうさせるのかもしれない。

児童憲章に関する原稿執筆のお話をいただき、改めて読み返してみましたが、個人的な感想としては「ごく当たり前のこと」という印象をもちました。家庭からの愛情を受け、心身健やかに成長する環境があり、学校では将来の就学に向けて学ぶ場がある。個性と能力に応じた教育をうける権利をもち、悪い環境からは守られる。身体、精神面において不自由さを感じる場合は適切な対応をうけられるべきである。子どもにあつて当然な権利と、親として果たすべき義務が定められているもの、というのが正直な感想です。

しかし、昨今の新聞やテレビで報道されているような、児童虐待、ネグレクト、貧困等、子どもたちを取り巻く悲しい環境があることも事実です。また、ネット社会による情報の氾濫と共に、子どもたちは、いじめ、不登校、ひきこもり、非行等の問題に出会う確率が今までのよりも高くなってきているかもしれません。

特に最後の条項には、当時の大人たちの思いが込められているように感じる。「すべての児童は、愛とまことによって結ばれ、よい国民として人類の平和と文化に貢献するように、みちびかれる」とある。

「愛とまこと」とは何であるのか、条文の中に「家庭に恵まれない児童には、これにかわる環境が与えられる」と記されている。「誰も見捨てない」という強い意志を感じる。戦争孤児一・二百万人というどん底の、大人すら生きていくことがままならない時代に、子どもたちの未来を見すえ、百年先にも通じる大人の心構えを、夢と希望を持って、思いを込めて書かれた「児童憲章」だと確信する。

冒頭「児童憲章」なるものをまったく知らずに書いたが、原稿を書くにあたってインターネットで調べることから始めた。検索してみると、ある保育園の園長先生がかかれたブログに「児童憲章」のことが書かれていた。タイトルには、「児童憲章ってなあに？すべての大人に贈る言葉」。原稿を書き終えるころになって、「児童憲章」を制定した当時の方々に思いをはせ、誰のために書き、誰に伝えたかったのか、そう考えたとき、その言葉がピタリとあてはまる。

「すべての大人に贈る言葉」。
そう思うと、今年、大きな影響を与えたコロナ禍に際しても、どう立ち向かえばよいのか、

どこか遠くで起きていることのように捉えがちですが、実は身近なところに潜んでいるかもしれないのです。核家族が増え、共働きが増え、ひとり親等も含め「家族の在り方」はどんどんと変わってきており、家庭環境も様々です。私が児童憲章に感じた「ごく当たり前のこと」という印象は、実はとても恵まれた環境の中にいるからこそ感じるものなのかもしれません。子どもが育つ環境を考えたくともそれが難しく、日々の生活に困窮する家庭があることも、「すべては子どもたちのために」と、その幸せを願うPTA活動としては、考えていかなければならないものだと思います。

私たち親ができることを考えるにあたり、子どもたち一人ひとりに違う個性があると同時に、違う環境の中で育っていることを考慮したうえで、こうした問題に取り組み、学校や地域と連携して「子どもたちが幸せに育つ環境」を作り上げていくことが必要だと思います。わが子への愛のみならず、子どもが今後生きていく社会が素晴らしいものであるように、社会全体で子どもたちの未来について考え、行動していくことが必要になってくるでしょう。

今回、このような児童憲章を読む機会をいただき、改めてわが子を「社会の一員として、未来へ羽ばたいていく一人」として意識しました。と同時に私は親として、児童憲章にあるような環境を子どもに与えることができ

昭和二十六年当時、子どもたちの未来を描いた方々とも、思いを共有できるような気がしてならない。PTAの掲げる思いは、「すべては子どもたちのために」。少し言葉を足すなら、すべては「すべての」子どもたちのためにだと私は思っている。七十年の歴史あるPTAの活動も、この憲章の精神を土台にしていたといっても過言ではないだろう。私たちは先人の思いを受け継いで、これからの時代を生きていく子どもたちのために、新たな道筋をつけていく大切な役割を担っているのだと思えてならない。この大切な役割を、すべての大人たちとともに、歩んでいきたいと思う次第である。

すべては子どもたちのために

～児童憲章から学ぶこと～

岐阜県PTA連合会 母親代表

横井 由美子



児童憲章とは、日本国憲法の精神に基づき、一九五一年五月五日にすべての児童の成長と幸福の実現を願って制定されたもので、児童の福祉や教育に関する理念を提示し、児童福祉など関係法令の解釈指針となっているものです。

いるのだろうかと心配になりました。親の考えの押し付けになっていたり、世間体を気にする行動をしていないか。本人の意思を尊重することが大切なのに、いつの間にか「親の望む子どもであることが良いことだ」という思考になつていないかと考えさせられました。児童憲章の前文の最初にある「児童は、人として尊ばれる」の一文は、まさにその一言につきると思います。「子どもは親の所有物ではない」とよく耳にしますが、全くその通りだと思います。

「親としての責任」を問われる間は、親は子育てに関わっていく義務があります。子どもが自立するまでは、親として守っていかなければなりません。でも、親がいるだけで子どもが育つわけでもなく、親である私たち自身も成長できる場を、PTA活動として作り上げていけたら良いと思っっています。新型コロナウイルス感染症の影響で、例年行ってきた活動ができない状況の今こそ、改めてPTA活動の意味を考え、新しい取り組みに挑戦していくことも大切だと思います。岐阜県PTA連合会は「すべては子どもたちのために」という思いで今後も活動を進めて参ります。会員の皆様のご理解とご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

「コロナ禍をふまえ、健全なる児童生徒の育成を願って心の片隅におきたいものは何か」



岐阜市小中学校長会会長
長良東小学校 校長 鵜飼 高男

コロナ禍において

はや十一月。今年度も八カ月過ぎようとしている。依然、コロナ禍に関する報道がない日がない。

九月のNHKの報道で、ある学生の方が、「大学では、この四月から一度も構内へ入っていない。大学で仲間との出会い、将来的な付き合いとなる出会いができていない。休学しようと思う。やってみたいこととかけ離れている。すべてリモートの講義を受けている。大学へ入る願い・意義が見つからない」という内容の報道を耳にした。しかし、一方で、「リモートだからこそ、言いやすく、学生同士の仲間と人付き合いがしやすい」という声も聞く。**当たり前と思ったことが**

つい、昨年度まで、小中高どの校種においても、直接人と顔を合わせての出会い、人との付き合いのあり方、教育の在り方など、当たり前前と想っていたことが、当たり前前として考えられない。今迄のコロナ禍のない世の中のありがたさを痛切に思ってしまうのは、私

我々保護者が過ごしてきた子ども時代を振り返っても、すべての子どもたちに最低限の環境が用意されていたかという点、「すべての子どもたちに」とは言い切れません。

今の日本の現状として、これから懸念されることは、一番に少子化の問題であると思います。子どもたちが大人になって、社会を動かしていく時代がきたためにも、「すべての子どもたちに」知識や能力、正しい愛情など様々な環境下での教育が必要だと思います。ただ、すべての事を家庭内で、というのは難しいと思われるので、学校や、各自治体にある相談所や施設等を有効活用していくべきだと思えますが、現状、そういった情報発信が出来ていない事もあると思うので、行政への働きかけも必要だと思えます。

私が子どもの時は、悪い事をすれば、近所のおじさんに怒られたという事もありました。近所や地域の大人たちが、みんなで地域の子どもを育てていた。そんな記憶がありますが、今では、「見て見ぬふり」。これでは、地域で子どもを育てる、とは言えないと思います。

なかなか他人を叱る事は難しいと思います。日頃からの声かけや挨拶等で信頼関係を築いてからであれば、容易いと思うので、皆さんも是非、地域の大人になってください。

昨年、岐阜県PTA連合会教育環境委員長として取り組んできた、発達障がいについて

だけではないかと思う。

小中学校の学校での実態はいかに

岐阜県内では、六月から分散登校、通常登校を始めた。マスク・手洗い・消毒、あらゆる感染予防対策をしたうえでのスタートだった。九月の時点でも、予防対策は変わらず実行している。子どもの様子をみると、きちんとマスク・手洗い等を励行して学習したり、生活したりして過ごしている。その意味を家庭・地域教育においてなされているからであろう。屋外では、外していいとわかっているものの付けたまま、生活している児童生徒も多い。マスク等をしたままでも、会えること自体の価値を感じてやまない。会って顔を見て話すことは、心が落ち着くし、互いの考えの相違を認め合うものである。

顔がみえる生活・教育を

以前のように当たり前前に、対話して学び過ごすことが難しくなっている。しかし、会って話すことができること自体によさを感じてやまない。私は、リモートにして、直接会うことにしろ、顔をみながら対話し、生活していく社会の大事さを感じる。

声を聞き、相手の表情、相手の背景にある

家族の方々が浮かぶように

表情がみえなくても、手紙、声でも、相手の想い・表情が浮かぶ人でありたいと思うし、そういった教育を施すことは、これからの希

の啓発で、一番皆様に伝えたかったのは、何かしらの障がいがあるからと区別するのではなく、「子ども自身の特性であり個性である」という事を理解して頂き、助け合って共存している世の中を作っていきたい、と考えていることです。

子どもたちは、学校生活の中で互いに接して上手に共存できています。ただ、我々保護者の子どもの時代には、隔離され接する機会が少なかったため、今でも抵抗があるのかと思います。

みんな同じ子どもで、一人の人間です。私とあなたとでも、顔も声も体の大きさも走り方も学力もすべて異なります。まったく同じ人間は、一人もいないのです。それが個性であり、特性だと思えます。その個性であり特性を認め合う事で、お互いを尊重しあい、社会は上手く回っていくものだと思います。子どもたちに教育する前に、今一度、我々保護者もしっかりと考えてみてください。

それから、皆さんの職場でもこの問題について、話し合っ頂ければと思います。

日本国憲法における三大義務は、教育の義務・勤労の義務・納税の義務です。教育の義務は学校等、勤労の義務は企業、納税の義務は企業等での労力の対価からの納税。これらは、日本国民としての義務であり権限だと思えます。

薄になりがちな人間関係社会を食い止めることにつながると信じている。

また逆に、そう感じる事ができれば、自分が、このことを話したり、行動したりする時、いかに相手の心に留まるか悲しむか、相手の向こう側にある背景の人たちに想いを察することが出来る。

そして、言葉を選んで話したり、行動で表したりすることができると信じてやまない。そう思った思いを、ことあるごとに児童生徒には勿論のこと、私たち学校・家庭・地域も一体となって立ち止まって考えていくことを心の片隅に留めていきたいものである。

児童憲章を読む

前岐阜県PTA連合会教育環境委員長

古澤 英樹



今から七十年近く前の、一九五一年五月五日子どもの日に制定された「児童憲章」。

聞きなれない方もおられると思いますが、すべての子どもたちに、一人の人間としての尊厳が与えられる。これは至極当然の話なのですが、現状を見れば様々な家庭環境や社会環境により、必要最低限の環境さえ与えられない子どももいると思います。

企業等において就職することが難しいと言われる子どもたちでも、何かしらできます。各企業におけるCSR（企業の社会的責任）は、こういった分野に目を向けるべきだと思いますので、職場で話題にして頂きたいと思えます。

昨今、子ども達の悲しい事件や事故が連日聞かえてきます。犯罪や犯罪被害の低年齢化が目立っていることも、何とかしなくてはならないと考えています。

SNSやオンラインゲーム、保護者の知らない所で、危険な誘惑の声が子ども達に聞こえてしまっている中で、単に端末を与えるだけでなく家族で話し合い、ルールを決めて正しく使用できるよう教育しなくてはならないと思います。そのためにも、保護者の皆さんも勉強しなくてはなりません。これからますますIT社会になっていく中で、そういったツールは必要になってきますので、与えるからその責任を保護者も感じるようにしましょう。

最後に、PTA不要論も聞く事もあります。が、「保護者の責任・大人としての常識」を皆で考え助け合いながら、すべての子どもたちを育てていくためにも、PTAという大きな組織はとても大切な絆だと思えます。

我々保護者の老後も安心して暮らせる、そんな素晴らしい世の中を作れる子どもたちを、すべての大人で共に育てていきましょう。

コロナ禍における差別偏見を考える

岐阜聖徳学園大学教育学部特別支援教育専修 教授 安田 和夫

ストツプ

「コロナ・ハラスメント」宣言

九月一日、岐阜県知事及び県内四十二市町村長共同宣言として、〈ストツプ「コロナ・ハラスメント」宣言〉が出されました。これは、新型コロナウイルスという私たちにとって未知の病気に対する恐怖心、誤解や偏見などにより、新型コロナウイルス感染者やその家族、医療従事者及びその家族など、知らず知らずのうちに誰かを排除したり、差別をしたりする、いわゆる「コロナ・ハラスメント」を県民挙げてストツプしようとするものです。

「コロナ・ハラスメント」の例示の中には、保育所や学校での事例も含まれています。

- ・感染者の子どもが、学校でコロナのことでいじめられ、泣きながら帰ってきた。
- ・医療従事者の子どもが、保育所で受け入れ拒否やいじめを受けた。
- ・子どもが学校を休むと、同級生にコロナに感染したと言われた。

責めるのではなく励まし、温かく迎えること」「誤った認識や不確かな情報に惑わされず、科学的根拠に基づいて行動すること」を繰り返して学んできた成果とも言えるでしょう。

しかし、その数時間後、別の学校にお子さんを通うママ友のBさんからLINEが届き、「Aさん、大丈夫？〇〇高校で感染者が出たって言うじゃないの。息子さんは大丈夫？〇年〇組の〇〇という子らしいわよ。気をつけてね」との内容でした。個人を特定する内容で、びっくりしたそうです。すぐに、Bさんに、こうした情報は今後拡散しないようお願いすると共に、学校に、こういう内容の情報が出回っている可能性があるかと学校にお電話されたそうです。

今回、LINEしてきたママ友Bさんは、Aさんを心配しての行動だったかもしれませんがスマホから送信する前に、こうした情報拡散がどんなことにつながる危険性があるのか考えてみることはできなかつたのでしょうか？不安や恐怖が先立つと、冷静な判断が難しいものではありませんが、コロ

実際に、五月末から六月にかけて

小中学校が再開された頃、教育相談の際に、咳をしたり、保健室で休んでいたりしただけで「コロナじゃないの」と、根拠のない言葉を浴びせられたり、遠ざけられたりして辛い思いをしたとの話も聞きました。

第一波のコロナ感染拡大が収束した頃、ワクチンや治療薬が開発されるまでにはまだまだ時間がかることをふまえて、盛んに、「Withコロナ」や「コロナ禍における新生活様式」という言葉が、新聞やテレビ・ラジオで流されましたが、ソーシャルディスタンスの遵守、マスクの着用や手洗い・うがいの徹底といった保健衛生的な取組はもろろんのこと、他者を傷つけるような言動を謹み、誰にでも優しく接する気持ちを一人ひとりが育んでいくことが大切だと思えます。

まずは家庭の中で

県内の学校の児童生徒の中にも、コロナ感染者が出始めた頃、感染者が出た学校名や感染者の学

人であることを自覚して、差別偏見の事実から目を背けないことの大切さを教えてくれた人物がいます。テニスプレーヤーの大坂なおみ選手です。

二〇二〇年九月、大坂なおみ選手が、全米オープンテニス選手権で見事二度目の優勝を飾ったことは、世界中に大きな感動をもたらしてくれました。なかなかトーナメント戦で上位に食い込めない日々が続く、さらには、このコロナ禍において、大きな試合が次々と中止となり、練習場の確保さえままならない中での優勝でした。大坂選手のインスタグラムには、コーチの指導の下、体幹を鍛える練習に集中している映像が紹介されていますが、減入りそうな毎日をポジティブにとらえて、今しかできない練習プログラムに挑戦し、大切な大会に臨んだことも、大きな話題となりました。

さて、今回の大坂なおみ選手の黒人差別撤廃のメッセージは、全世界を駆け巡りました。決勝に勝ち上がるまで、試合に出るごとに、黒のマスクをつけて入場しました。そのマスクには、黒人に対

年や名前などを特定するような動きがインターネット上で見られました。情報を発信している人や拡散している人は、匿名の世界に身を置いたまま、一方で、真偽不明な情報により、不特定多数の人に個人情報を晒される方達の苦痛は計り知れません。

現在、各園、各学校では、幼児児童生徒や教職員に感染者が出た時を想定して、新型コロナウイルス感染拡大防止及びストツプ「コロナ・ハラスメント」宣言の観点から、対応マニュアルを作成すると共に、様々な機会を捉えて、児童生徒の指導や教職員の研修に努めています。

そんな中、県内のある高校でも、七月にコロナ感染者が出ました。その高校に息子さんを通うAさんは、その直後、息子さんから学校の様子について聞きました。すでに近隣の高校でも感染者が出ていたと言ったこともあり、どの生徒も冷静に事実を受け止めていたそうです。息子さんからこうした話を聞いて、心からほっとされたそうです。

「感染した人や症状のある人を責めるのではなく励まし、温かく迎えること」「誤った認識や不確かな情報に惑わされず、科学的根拠に基づいて行動すること」を繰り返して学んできた成果とも言えるでしょう。

優勝後に行われたセレモニーで、レポーターから、七種類のマスクのメッセージについて問われた大坂選手は次のように答えています。

「あなたがこのマスクからどんなメッセージを受けたかということですが、人々がこれをきっかけに、差別問題について話し始めるようになるれば」。このメッセージは、今の時代に生きるすべての人に投げかけられたものと感じました。そして、何より、世界中の子どもたちに、夢に向かって諦めない強い心と、すべての人に対する優しい心を自ら育んでいこうというメッセージを送ってくれたと感じました。



保健室ノート



休校の中の卒業式

大野町立南小学校
養護教諭
新井 美香



令和二年二月二十八日。
子どもたちが登校すると話題は休校一色でした。

家庭の事情で転校する児童は「休校になったら困る。みんなといる時間が無くなっちゃう」と泣きそうになっています。六年生は、「どうしよう。これで小学校生活が終わっちゃう」と言いながら泣いています。もちろん、ウキウキしながら「休みになる！やったー！」なんて言っている児童もちらほらいます。

昨日までは一切考えたことがなかった休校が一夜のうちに決まってしまうました。卒業式はできるのだろうか？このままこの子たちと別れなければならぬのだろうか？保護者は急な休校で休めるのだろうか？一人ぼっちになっってしまう子はいないのだろうか？色々なことが頭の中をめぐります。もしかししたら、すぐにコロナが収まって、すぐに学校再開ができるかもしれない。そんなありえないことも考えたりしました。

そんな中、卒業式が行われました。いつもだったら、在校生の呼びかけがあり、お別れの歌を歌い、式が終わったら、児童玄関から校門まで在校生が長い列を作り卒業生を見送る。そんな

卒業式です。それが何もなくなくなりました。式もできる限り短縮です。それでも、私たち職員は卒業生を祝いたい。この子たちが少しでも素敵な卒業式だったと思ってくれたらと考え、できる限りのことをしました。

卒業式は、体育館の前後左右のドアを開け放ち、ギャラリーの窓も開けました。ストープはもちろんつけましたが、かなり換気をした状態で行いました。もちろん参加者全員マスク着用です。ほとんど練習ができなかった卒業生も、立派に卒業証書を受け取り、お別れの歌も歌いました。練習をしていないのできつとドキドキしていた子どももいたでしょう。しかし、まるで練習をしたかのように落ち着いて式を行うことができました。一カ月離れていた、あれを伝えておけばよかったと、考えてばかりいます。

ただけなのに、中学校の制服姿ということもあり、急に大人っぽく見えました。今まで何度も繰り返し行ってきた卒業式もこんな状態で行うのは初めてでした。子どもたちの顔を見ると、いろいろな思いが頭をめぐって涙が溢れました。

この文章が載る頃は、学校再開がされているかと思えます。久しぶりに学校へ登校した子どもたちは、どんな顔をしているのでしょうか。友達や先生に会えて嬉しい子、勉強が始まって、なかなかじっと座ってられない子、久しぶりに大人数での生活にストレス

を感じる子。さまざまあると思います。できるなら、みんな笑顔で、元気な姿で学校生活を送っていることを願っています。

三月末日現在、南小学校の職員も「やっぱり子ども達と過ごすのが一番いい」「早く、学校再開してみんなに会いたい」と職員室で話しています。

私は、令和二年度からは、別の学校での勤務が決まっています。最後に、可愛い南小学校の子どもたちと会えずにお別れしてしまうのは、とても寂しいです。こんな別れ方をするのなら、これをやっておけばよかった

た、あれを伝えておけばよかったと、考えてばかりいます。今までの日常が、子どもたちと笑っていて、喜びあって過ごす学校生活が、こんなに大切に愛しいものであったのかと痛感しています。今の段階ではまだまだ先の見えない新型コロナウイルスですが、いつでもどんな時でも、子どもたちの心と身体の健康を保てるように、職員一丸となって最大限の努力をしていこうと、今強く思っています。

Illustration&Quiz イラスト&クイズ



PN. スーさん (養老郡)



PN. 堀 朱姫 (飛驒市)

question 1

出題・堀 希実 (羽島郡)
(答えは32ページ)

いたい人もいれば、くる人もいる。いい人もいれば、わるい人もいる。服は着ないけど帽子はかぶる。これな～んだ。

尊敬する先生との出会い

多治見市立南姫中学校

教諭 八橋諒

「保健体育の先生になりたい」。

私がそう思うようになったきっかけの一つは、高校生の時に体育を教えてくださいましたF先生との出会いである。F先生は規律に大変厳しく、登校時に指導を受ける同級生を何人も見かけたことがある。体育の授業では、整列や準備体操で揃っていないと、とても厳しく指導を受けた。それがきっかけで体育の授業があまり楽しくないと思える時があった。正直、入学当初はF先生のこととはあまり好きではなかった。体育の先生になりたいという思いももっていなかった。

しかし、高校一年生の秋、そんな私に転機が訪れる。それは、保健体育の持久走の授業である。中学生の頃、バスケットボールに打ち込んでいた私は中体連が終わった後も駅伝部で活動し、持久力には自信があった。高校の持久走の授業でも学級で一番を争っていた。しかし、私には不安があった。それは、F先生が「初期計測の記録を全員が塗り替えるまで授業を続ける」と仰ったことである。私はそれを中々更新することができなかった。そして、ついに最後の一人になってしまった。F先生が「ずっと学級を引っ張ってきた八橋が最後に残ってしまった。もう一時間持久走の授業をするぞ」と仰った。周囲の仲間は嫌な反応はしなかったが、私は申し訳ない気持ちでいっぱいだった。肩を落とす私にF先生が「ここでこの授業を終わりにしたら、お前に逃げることを教えることになってしまう。あと一時間やるから、最高記録を出さない」と仰った。「やってやる！」という気持ちと、「できるだろうか」という気持ちが入り混じった。

迎えた最後の持久走の授業。目標を達成しているから、力を抜いて走る者も多かった。私は残り三周で辛くなり、「達成できないかもしれない」と思い始めた。その時、F先生が前時まで私とずっと一番を争っていたN君を呼び止めて何やら話しているのが見えた。すると、N君が残り二周を私と一緒に走ってくれたのである。私は辛かったが、N君と一緒に走ってくれたおかげでペースを維持し、初期計測の記録を塗り替えることができた。F先生は「頑張ったな」と一言かけてくださった。私は、得意だった持久走で初めて味わった挫折を乗り越え、とても大きな達成感を得ることができた。

後に、一緒に走ってくれたN君に「あの時、何をいわれたの？」と聞くと、残り三周の時に「八橋はNとずっと一緒に走ってきて、Nも良い記録を残せたんだから、Nも八橋が記録更新できるように一緒に走りなさい」とF先生から話をされたことが分かった。私は、厳しいばかりが印象的なF先生だったが、さりげなく生徒が課題をやりとげることができるよう働きかけてくださっていることを知った。そして、厳しさの中に生徒を思う優しさをもつF先生から保健体育を教えていただけることをとても有り難く思った。

当時、英語の教員を目指していた私だったが、この授業を機に保健体育の教員を視野に入れるようになった。私は決して運動を万能にできる訳ではなかったが、「運動が苦手な子を支えたい。自分のように達成感をもたせたい」という思いをもつようになった。また、「F先生のように、厳しさの中に優しさのある先生になりたい」と考えるようになった。

結局、私は高校三年生の秋まで、進路に悩んだが保健体育の教員を目指す意志を固めた。今でもF先生と一緒に話をさせてもらう機会があるが、その時にF先生から、「自分の信念をもち、貫く教師になりなさい」という言葉を頂いた。私は、F先生を尊敬しているし、あんな保健体育の教員になりたいという思いもある。しかし、私は私である。F先生とは違ったやり方かもしれないが、自分が思う最もよい方法で子どもたちにできた喜びを味わわせる教員になるため、努めたいと思う。また、自分の信念をもち、貫き、生徒の学びを支えていけたらと思う。

子どもに気付かせてもらった事

皆さんは、子どものころに親から理不尽だな、と思うようなことを多く言われた経験はありませんか？
例えば、子どもには早く寝なさいと言うのに親は夜更かしをする、時代を感じますが長電話はするもんじゃやないと言いながら親は長電話をするなどなど。

私は子どものころ、そのように思った経験が多くあります。しかし恥ずかしながら、親になった今、同じことをしていると最近気付きました。

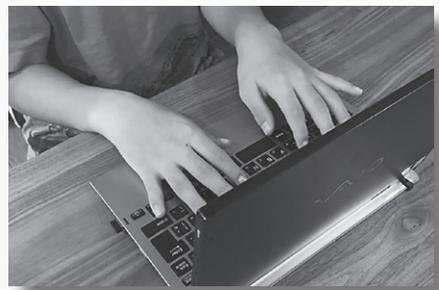
きっかけは、息子の一言でした。ある土曜日の夜、私は息子に「休みの日なんだから、こんな夜遅くまで勉強するなよ」と声を掛けました。息子は、不満そうに手を止めて「なんでやったらいけないの？お父さんだってやってるじゃん」と言い返してきました。私としては、昼間も勉強をしている姿を見ていたし、習い事から帰ってきた娘と家族みんながゆっくり夜を過ごそうかと考えての発言だったので、再度、「昼間だってやる時間はあったんだから、みんながゆっくりしよう」と言い返しました。息子はしぶしぶ中絶し、ある一言を私

に放ちました。「んじゃ、これから僕が一家団欒の時間だと言ったら、お父さんは仕事や勉強を中断してゆっくりするんだよね？」と。私は「!?」絶句しました。何も言い返すことができませんでした。私も自分の都合で切りのいいところまで仕事を仕上げたいが為に、家族で囲む食事の時間を疎かにしたり、仕事の電話がかかってくると、みんなでゲームをしていても一人だけ中絶したりすることがしばしばありました。私には私なりの理由があったのですが、それは息子たちに理解されるはずもありませんでした。なぜならきちんと理由を説明していませんでした。例えば子どもたちに、ペース良くやっていると止めたくないからとか、緊急かもしれない仕事の電話を無視することができないから、など理由を説明していれば子どもたちも少なからず納得してくれたかもしれません。

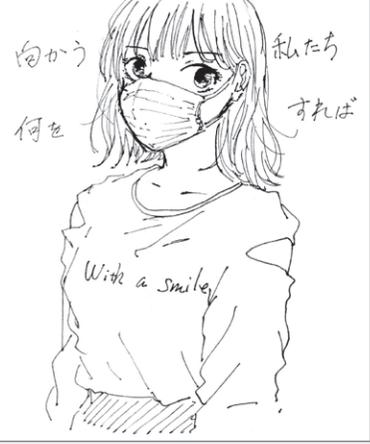
思えば、私が子どものころ感じた理不尽も理由がないことが原因でした。子どもが夜更かしをしてはいけなくて、大人はしている理由や、長電話はするもんじゃやないと言いながら、大人はしている理由など、大人になった今なら寝不足だと学校生活に支障が出るからとか、大人が働いたお金で電話料金を払っているからと理解できます。今回の出来事も、「昼間も頑張っていたのだからそんなに頑張らなくても、それにみんなが毎週観ているドラマの最終回を一緒に観よう」と伝えていけばこんな言い合いにはならなかったかもしれない。各々の理由は、言われなければ理解できないこともたくさんあると思います。それが子どもも相手なら尚更です。納得はできなくても理由を知るだけで相手に寄り添えることもある。そんな簡単なことに気付けた出来事でした。

今後は、息子の一言で改めて気付かされた、自分にとっては当たり前なのが他の人もそうとは限らないということに念頭に置き、子育てでも、理不尽さを感じさせない様な指摘の仕方を実践していきたいと思えます。きっとこれからも子どもに気付かされることも多々あるでしょう。その時素直に自分の足りない点を認められる大人でありたいと思えます。

今後は、息子の一言で改めて気付かされた、自分にとっては当たり前なのが他の人もそうとは限らないということに念頭に置き、子育てでも、理不尽さを感じさせない様な指摘の仕方を実践していきたいと思えます。きっとこれからも子どもに気付かされることも多々あるでしょう。その時素直に自分の足りない点を認められる大人でありたいと思えます。



新時代



PN. アオイ (大野郡)



PN. こん (羽島市)

question

出題・浅野 莉子 (安八郡)
〈答えは32ページ〉

「カメ」「ラクダ」「サイ」が買った物は何？



「読み聞かせ」が新しいお会合のきっかけに

山県市立富岡小学校PTA

富岡小学校は、山県市の南部に位置し、学校の西側を鳥羽川が流れており自然に恵まれた環境の中で子どもたちは生活しています。また、昨年度、東海環状自動車道の山県ICが開通したことで、今後、地域の発展も期待されています。

富岡小学校PTAでは、「自己実現めざす児童の育成をめざして学び実践するPTA」を活動の基本方針として、「学校」と「家庭」

が連携しながら教育活動に携わっています。また、平成二十八年度より学校運営協議会が組織されたことで、「地域」も一体となり活動を進めています。「読み聞かせの時間」は、保護者や地域の方によって行っています。

子どものお会合のきっかけに

富岡小学校では、本好きの子どもを増やそうと、約十年前より、読書活動に力を入れてきま

した。その時、地域や保護者によって結成されたのが『まごころ隊』（読み聞かせボランティア）です。毎年、保護者宛の手紙や『まごころ隊』の方の声かけ等を行いながらスタッフを募っています。現在、十名程度の方が登録していただき活動しています。

日々の活動からお会合のきっかけに

毎日、八時五分～八時十五分まで「朝読書」の時間が位置づけ

驚きと感動から新しいお会合のきっかけに

られています。その中で、毎週水曜日に「読み聞かせの時間」を位置づけ、『まごころ隊』の方が、全校の各クラスで読み聞かせを行っています。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で実施が見送られていますが、感染の広がりが収まってきたら行っていく予定です。

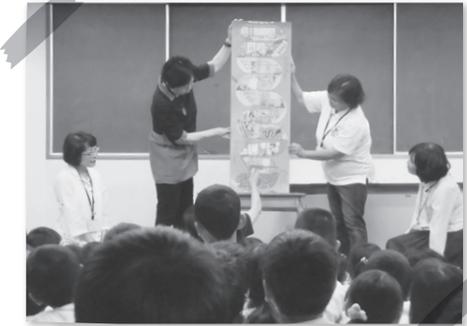
お会合をきっかけに新しいものこ

年度末には、「読み聞かせ感謝の会」が開かれます。一年間お世話になった『まごころ隊』の皆さんに、児童から感謝状と手紙が渡されます。昨年度の手紙には、「毎週の読み聞かせの時間が楽しかった」「本が好きになった」など、温かいメッセージが書かれていました。

年に一回、全校児童を対象に、『スペシャル読み聞かせ』を行っています。『まごころ隊』の方が半年ほどかけ、大型絵本を作製します。そして、体育館で演劇を交えたり音楽を流したりしながら読み聞かせを行います。大型絵本を作製するにあたって、どの子ども興味をもてるように視覚的にわかりやすい絵本や地元ゆかりのある方の絵本などを選ぶようになっています。

『スペシャル読み聞かせ』の時間、児童は、とても楽しみながら食い入るように大型絵本を見ていました。

これからも、「読み聞かせの時間」を通して、人や本との出会いから児童一人ひとりの心が豊かに育つことができるような活動にしていきたいです。



親の背中 ⑤

大切にしていること

海津市立石津小学校

P T A 広報委員長 佐藤 智美

私が大切にしているのは、「人との繋がり」と「感謝の気持ち」と「好奇心」の三つです。子どもの頃から気が強い上に、思ったことをそのまま口に出してしまうことが多く、気を遣ったつもりが墓穴を掘ってしまうなど、人間関係はかなり苦労しました。大人になった今でもまだまだトラブルを抱えることや悩み迷うことも多いです。職場はもちろん、子どもを挟んでの人間関係や近所さんなど、年齢や出身地など色々なことがバラバラな人たちと関わる機会が増え、複雑さも感じていきます。「よそと比べてうちは…」と落ち込むこともあります。

それでも人との繋がりを望むのは、色々な考え方を知ることができ、お互いに話を聞き励まし合うなどして元気を分け合えるからだだと思います。そしてマイナス思考に囚わ

そして、理解し支えてくれる家族に感謝しながら、息子に「大人になるのいいな、楽しそうだな」と感じてもらえるような大人でありたいと思っています。

親のお腹

郡上市立郡上東中学校

P T A 会長 佐野 武

我が家は、高校三年生の息子、中学三年生の娘、中学一年生の息子、小学五年生の娘、妻、私の両親も健在で八人暮らしです。体は弱くはなっていますが、私自身、まだ親の背中を見て過ごす機会があることにとても感謝しています。

『親の背中』というテーマを頂き、自分子どもに背中で何を伝えているのか考えてみました。四人の子どもたちは、私の背中をどう見ているのか、見ているのか見えていないのかも分かりません。でも、自分に似ているところ、妻に似ているところ、おじいちゃん、おばあちゃんに似ているところがそれぞれにあります。自分が子どもだった頃、苦手だったことや、得意だったことがそっく

れて落ち込んでしまう時には、違う角度から見て前向きに捉え直してくれて、認めてくれる友だちがいることで救われています。美味しいものを一緒に食べに行ったり楽しい時間を共有したりする幸せもあります。

家族、職場や趣味や息子たちを通じて知り合った皆さん、本当に多くの人に支えられて今の私があると思います。そして以前はなかなか口に出せなかったけれど、今は良い所に気づいたら、感謝の気持ちや「いいね！」の思いを伝えるようにしています。

感謝の気持ちが素直に出せるようになったきっかけは、以前学校で相談員をしていた頃の、とても素敵に褒めて下さる先生との出会いでした。どんな些細な報告でも快く聞いて下さり、必ずさり気なく褒めて頂けるので、本当に小さな事まで話しに行き、温かい気持ちで仕事をさせてもらいました。その先生の送別会の時に教えて頂いた「褒める極意」が、「すぐ褒める」と「具体的に褒める」でした。それ以来この二つを意識

りで、叱っている時には自分を叱っているかのような錯覚さえ覚えることもあります。『子は親の鏡』と言いますが、子どもを通じて反省させられることも多く、子どもたちから色々なことを学び、親として成長させてもらっていることに気付かされます。

自分が子どもの頃は、親は我が子を取り巻く友達の顔はほとんど知っていたのではないのでしょうか。今は時代が変わり、SNSを通じて世界と繋がっています。親が子どもの友達の顔を知らないことが当たり前になり、親の目が届きにくい世の中になってきています。情報が多様化する中、子どもたちが自分で判断しなければならぬ機会が増えてくることは間違いありません。

私は子どもたちによく言う言葉があります。「お父さんが明日死んだら…、くどいけど言う」私が経験した全ての情報や知恵を子どもに伝えたい。私がいなくなると、親として助けてあげられない時、子どもたち自身が判断する時の、何かを判断する時のヒントになればと思っています。私の子どもの頃を思い出すと、私の父は「いつまでもあると思うな親と金」と言っていたのを思い出します。

するようになり、話を聞く時の自分の心構えが変わると、仕事はもちろん人との付き合い方が随分前向きに変わりました。息子に対しては、ガツンと怒っても、同時に良いところにも目を向けて声かけができるようになりました。先生の域にはまだまだですが、私なりの工夫を続けていきたいです。

そして、親となった今でも忘れたいのは「好奇心」です。これと決めた事に没頭する父と、興味のある事に常にチャレンジする母。二人がそれぞれに好きな事を楽しむ姿が、何より印象的な親の姿でした。私の趣味はカメラですが、それも元々は父の趣味の一つでした。買ったばかりの父のカメラのファインダーを覗いた時の感動が、私の興味の発端でした。その後、様々な出会いを経て写真表現の面白さを知り、今は広報委員の活動を楽しめているのも、両親のおかげだと思っています。

これら三つを大切にしながら、日々色々な事に挑戦したり、楽しんだりしています。

いつ来るか分からない『親がいなくなる時』に自分で判断できるように言っていたのかな、と今になったからこそ思えます。

私は、今年で四十九歳になります。両親にとっては、まだ子どもなのでしょう。些細なことを口うるさく言われます。でも、そんな小言も言われなくなる日が必ずやって来ます。私も、いなくなるその日まで我が子に小言を言い続けようと思っています。

子どもたちも大きくなり、小言を言うたび「うざい」と言われます。でも時間が経てば、楽しく笑い合え「お父さん、何？そのお腹！わっはっは」と私のお腹を見て笑う声が響く我が家。高校三年生の長男は、後少しく親元を離れていきます。親の背中を見て、どれだけお腹を見て育ったのか、合っていたのか、間違っていたのかは分かりません。ただ、子どもたちには、小さな決断を多く体験させ、人に流されることなく自分で判断できる人に育って欲しいと願っています。『親の背中』、『親のお腹』を特別意識することなく、これからも何気ない時間を大切にし、子どもたちに体当たりして向き合っていくように思います。



11月号の

親子ではてな



Q2 有名な俳句である「柿食えば鐘が鳴るなり法隆寺」を詠んだのは誰でしょう？

- ア 松尾芭蕉
- イ 小林一茶
- ウ 与謝蕪村
- エ 正岡子規



Q1 アメリカの先住民が使っていたとされる満月の名前のうち、11月の満月はなんというでしょう？

- ア ハンターズムーン
- イ コールドムーン
- ウ ビーバームーン
- エ ハーベストムーン



応募方法

応募者は、はがきで、11月末までに下記の宛先へお送りください。
(1人1枚・当日消印有効)
※クイズの答えは1問だけでもOKです。

宛先 〒500-8816
岐阜市菅原町3-3
岐阜県校長会館内
岐阜県PTA事務局
「わが子のあゆみ編集部」

なお、応募はがきには『わが子のあゆみ』への感想・意見やなぞなぞの問題と答え、逆さ言葉などを記入してください。

●11月号クイズの答え

●郵便番号・住所
学校・学年・氏名
保護者名

●『わが子のあゆみ』
への感想・意見

●「なぞなぞ」の
問題と答え

●逆さ言葉

3月号クイズ答え

Q1 イ Q2 ウ

3月号のクイズ当選者

名和 氷鏡 (安八郡) 浅野 叶登 (岐阜市)
平田 詩織 (加茂郡) 池田 涼菜 (大垣市)
三宅 晴 (美濃加茂市) 成瀬 考将 (揖斐郡)
鈴木 花歩 (郡上市)

なぞなぞの答え

- ①頭
- ②カメラ(カメラクダサイ)

思いやりの心と大切な仲間

恵那市立三郷小学校 PTA会長 小栗 浩彰



(1) 挨拶をする
(2) 協力し合う
(3) 何事にも楽しむ

この三点は、子どもたちの成長過程で自然とできるようになってもらいたいと願っている項目です。人が成長する過程では様々な環境の変化があり、その中で戸惑いや困難があります。困難に立ち向かっていく強い心を持つには、人にやさしくできる思いやりの心を育み、大切な仲間を持つことだと考えています。

四年生から入ったスポーツ少年団で、チームのために仲間を励ます姿は本当に親・指導者として嬉しく思います。何より、苦しい練習を何とか楽しもう・チームを盛り上げようとする気持ちが周りを明るくしてくれます。成長段階である子どもと共に、私も未だに成長できることを感謝しております。

小栗家の巻

100



話そう!語ろう! わが家の約束

約束① 每晚神棚へ明日の誓い
我が家には仏壇がありません。神頼みではなく、明日は〇〇を頑張ります!や、家族みんなが元気で頑張ります等々、明日への目標や願いを込めて毎晩手を合わせています。

約束② スマートフォン等機器の適切な活用
スマートフォン等機器の利用について、我が家では二つの約束を設定しました。
一つ目は、実力テスト等に目標点数を設定し、もしも点数が下回った場合、次回の機会まで使用を禁止する約束をしました。ゲームやインターネットの利用時間を制限するよりも、学業と自分の時間の折り合いを付け、依存することなく適度な活用を身に付けて欲しいと思います。
二つ目は、不定期に機器を確認することを断らないことです。不適切な利用をしていないか確認すると共に、正しい利用をしていければ、インストールするアプリケーションや内容等の説明も親へ堂々と出来るはずですよ。素直な会話で隠し事のない親子の関係を保ちたいと思っています。思春期の子どもです、約束事と関係がなしいことは関与しないように心掛けています。

裁家の巻

101



下呂市立下呂中学校 PTA 裁 昭人
『ひとり歩き』への約束

子の思い

家ぞくのじょうかい

各務原市立緑苑小学校

三年 永瀬右京

ぼくの家ぞくは、お父さんとお母さんとぼくの三人です。

お父さんは、しごとがたいへんなので、休みの日も、なかなかおそべません。でも、いっしょにあそぶ時は、ぬいぐるみでたいせんをします。お父さんは大きい秋田犬のぬいぐるみで、「ワンたろう」、ぼくは小さい秋田犬のぬいぐるみの「ツーたろう」です。秋田犬でない犬のぬいぐるみは「さんたろう」といいます。お父さんは、「ワンたろういん石」というわざで、ぼくの「ツーたろう」にぶつかってくるのがおもしろいです。ぼくも「ワンたろうメッテオ」といって「ワンたろう」の足をうごけなくして、はんげきします。こうやってあそぶ時が一番楽しいです。

お母さんは、さいきんミシンを買って、ぼくとお父さんのマスクを十二まいも作ってくれました。それにりょうり名人なので、オムライスがすごくおいしいです。玉子の上にケチャップで、ぼくの顔をかいてくれるのがうれいしです。

もうすぐ母の日なので、ぼくは、お母さんへありがとの手紙を書きます。

ぼくは、「いつもおいしいごはんを作ってくれてありがと」と書きたいです。

ぼくは、家ぞくが大好きです。

一から育てたバケツ稲

大垣市立静里小学校

六年 渡邊志織

私たちは、昨年の五年生の五月から、バケツで稲を育てました。この体験で、印象に残ったことが三つあります。

一つ目は、種もみから根を出させるところです。小さなカップに沈ませた種もみは、栄養が詰まっ

まいた種もみは、全て水に沈みました。全て根が出てきて、「わあ、すごいなあ」と声をあげてしまいました。こんな小さな種もみから、あんなに大きな稲に育つなんてすごいと思いました。

二つ目は、秋の稲刈りです。一つぶの種もみから、こんなにたくさんのお米がなるなんて感動しました。風で金色になった稲穂が、サラサラとゆれています。穂先を持ってみると、固くて、プクプクとしていて、ずしりと重かったです。「稲ってすごいなあ。これからお米を食べるときは、感謝して食べたいなあ」と改めて思いました。

最後に、花が咲いたときです。上から順に小さなもみが二つに割れ、中からおしべとめしべが出てきたときの感動は心に残っています。少し、スズメに食べられました。いい感じに育ってくれました。

この体験から得た、感動や感謝の気持ち大切にしていきたいと思えます。

親の願い

大切にしたいこと

瑞穂市立生津小学校

前PTA副会長 谷口みさき

「おはよう。」

毎朝、起きてきた子どもから掛けられるあいさつが私の一日の始まりの合図です。一日のうちで一番心穏やかにあいさつを返すことができるのもこの時です。

我が家は夫婦と今年六年生の長男と三年生の長女の四大家族です。子どもたちは今まで特に大きな病気やケガもせず健康でいてくれるのでとてもありがたいと思っ

前進

中津川市立第二中学校

三年 萩優奈

『前進』個人でも集団でも自らもつ力を発揮できる「中生」

第二中の前期生徒会は、このスローガンを掲げて取り組んでいます。私は、生徒会長として、第二中は大きく前進することができたいと思います。

五月末にやっと学校が始まったものの新型コロナウイルス対策が優先され、活動が制限されていく中で会長として、今まで行ってきた活動ができるのだろうか、不安な日々を過ごしていました。

そんな中、追い打ちをかけるように「中体連中止」という報告を受けました。私は、中体連に関する部活動には所属していません。しかし、中体連に関係する部活動に所属していた仲間が、一年生の頃から、朝早く活動したり、休みの日も熱心に取り組んだりしていることを見ってきました。そうした仲間達のために、何かの形で締め

くくりをすることができないかと考えました。

そこで、三年生に部活動について思っていることをアンケート用紙に書いてもらいました。そこには、「中体連がなくなって悔しい」「せっかくここまで練習してきたのにやり切れない」などの意見が多くありました。一方で、「一・二年生に今まで自分たちが積み上げてきたことを引き継いでいってほしい」という前向きな意見もありました。

これを受けて、部活動の締めくくり方を生徒会執行部で検討しました。その結果、三年生に「部活動に対する願いや想い」「引き継いでほしいこと」などを語ってもら

う『部活動引継ぎ集会』を開催することにしました。

当日は、感染予防としてリモート形式で行いましたが、三年生が全校の生徒に対して、自分の思いを堂々と語ってくれました。今回、初めて行ったこの活動を、リモート放送で成功に終わらせることができ、執行部の大きな前進だと感じています。

今、私たち生徒会は、体育大会に向けて取り組んでいます。感染予防に努めながらも「前進」というスローガンに自信をもち、活動していきます。

県立大垣桜高校
まんが研究部

食欲の秋



逆さ言葉

れいとうといれ

(冷凍トイレ)

出題・伊藤 慎介 (山県市)

冒頭で述べたのは大切にしている日常の一つです。あいさつはしてもされても気持ちよく感じます。家族ではうやむやになることもあるので、ありがとうやごめんなきがなかなか言えない時は「今ありがとうって言ってもらえたら嬉しいな」と、私が素直な気持ちを伝えて気づいてもらえるようになっています。

食に関しては楽しく食べられるようテレビを消して、学校でのことなどを話してもらっています。また、食卓に並ぶ食材について「このキャベツはじいじの畑で採れたもの〜」や、今旬の野菜は何かかななど、知っていてほしいと思う食に関する話題を意識して話すようにしています。日々食べる物で体は作られていくので、一人で生活するようになった時、自分の口にするものはきちんと選べる大人になってほしいと願っています。

もう一つの早寝早起きは学校がある日は良いのですが、正直に言えば土日ともなると崩れてしまっ。オンとオフの切り替えも大

切だと身をもって説明している訳です。とはいえきちんとしなければと親も自身を顧みる日々です。子どもたちによって親も一緒に成長しているのだと思います。

昨今の社会を見てみると働き方改革、子どもに関することと新しい学習指導要領…等、目まぐるしく変化しており、私たち親の経験してきた考え方や価値観では通用しなくなっていくのだからと感じています。そういった新しい社会の流れは親だけではなく学校での学びや友達との付き合い、今後出会う方たちから子ども自身が学び吸収して欲しいと願っています。その学び取る力を付けられるようなサポートをしていきたいと思っています。

原 点

 岐阜市立長良中学校
 PTA会長 森栄次
 新型コロナウイルス感染症の影響のため、不安感が広まっている

教育の窓

コロナ禍のPTA活動

 神戸町立南平野小学校
 教頭 後藤信幸

今回この原稿依頼をいただくことで、原点復帰することができました。当たり前の日常の中に大切なことがいっぱいあることに気付かせてくれたと思います。いつもの気付きに出会えることがPTA活動の魅力です。今年もどんな気付きに出会えるか楽しみです。

中、今回の原稿依頼がありました。何か明るい内容はありますかという考えましたが、出てきません。そもそも子どもたちに何か願っていることはあるのかと自身に問い返したところ、覚えがありません。私にはこの春に中学校三年生と小学校六年生になる二人の娘がいます。そこで、二人の娘に普段私が言っている言葉は何かと問いかけてみました。

私：「お父さんが普段二人に言っている言葉って何かある？」
 娘：「宿題した？掃除した？かな」
 我ながらがっかり。

娘：「宿題も掃除もまだしてないから！」
 とニコニコ笑顔で返答します。怒る気にもなれず溜息。

娘：「でも昔はよく、いつでも笑顔って言っていたよ」
 確かに、「いつでも笑顔、悔しくても怒っていても笑顔が大事」と言っていました。こんな会話の中で思い出しました。昔、私が仕事に悩んでいた時に、私の父からアドバイスを受けたことがあります。

そんな中、PTA本部役員の皆さんから、「学校の先生方の放課後消毒の負担を減らし、子どもたちの安全を守るために、『PTA放課後消毒ボランティア』を始めたい」との申し出がありました。本年度、PTAとして、何か学校の力になりたいという思いからです。「消毒の仕方のマニュアル」や全保護者への「ボランティア参加呼びかけ」の文書の作成など、本部役員さんが主体的に活動してくださりました。毎日二、四名の方々が、夏の暑い中、汗を流

た。「人との繋がりがこそその人の財産。だから、縁は切られてもこちらから縁を切ってはいけない」この言葉をもとに仕事や自分自身の在り方や生き方を考えさせられました。より多くの人と出会うことが自身を成長させていくきっかけを作るのだと思います。そして、人は人でしか感化されない、成長できないと気付き、だから人の繋がりがこそが自身のかけがえのない財産だということに納得しました。

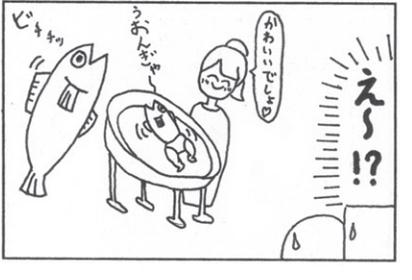
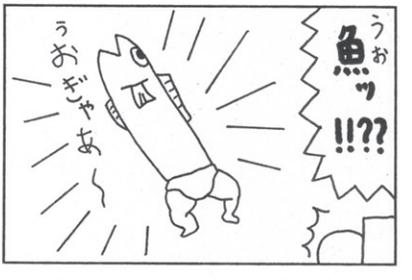
そのことを子どもたちに伝えるためには、何かないだろうかと考えました。当時幼かった二人の子どもたちは、どちらかというと引っ込み思案の時期でしたので、他の人に積極的な挨拶や話をするのは難しいと思っていました。

そこで、人との関わりを持つために「笑顔」というキーワードを伝えました。笑顔であればいるいるな人から声をかけて貰え出会いや関わりを持つことができるかと考えたからです。今では、子どもたちの笑顔を見るたびに私自身が何度も助けられています。今日も、

しながら消毒作業をしてくださっています。毎日、ご自身の仕事や家庭事情のある中で、時間を割いて学校に来てくださることに頭の下がる思いです。

また、八月からは、神戸町教育委員会は、スクールサポートスタッフを学校現場へ導入し、消毒作業員の方による、毎日二時間の消毒作業も始まりました。おかげで、教員は放課後に会議や研修、授業準備や校務分掌業務などの本来の業務に集中できるようになりました。教員が本来の業務に力を入れる環境をつくることは、子どもたちの教育活動を充実させることに直結します。PTAの方々がそのことに理解を示し、行動に移してくださったことが、何より

人魚...?



逆さ言葉
 とおいおと
 (遠い音)
 出題・五十川 陽菜 (損斐部)

ドライブレコーダー付き 自動車保険といえば、

MS&AD 三井住友海上



リアカメラ
新登場!

契約10万件突破! **GK**
見守るクルマの保険

社有車向け新登場! **ドラ**



GK 見守る

嬉しいです。

本校は、PTAはもとより、地域の方々の協力も多く得ています。学校バラ園の剪定や消毒、水やり、そして毎月のトイレ掃除ボランティア、雑草取り等々、主体的に動いてくださります。先日「先生たちも大変だから」と、夏休み中に毎日、学校農園や児童の学習用植物鉢などに水やりをしてくださいました。このようなコロナ禍で、皆さんが大変な思いをしている時ではありませんが、逆に、保護者や地域の方々の絆が深まったことを感じています。

PTAや地域からの学校愛にあふれた環境の中で育つ子どもたちはとても幸せです。私は「子どもは愛情



を受けて育つからこそ、愛情を注ぐ人になれる」と思っています。子どもは、教員の力だけではなく、家庭や地域の力があってこそ、大きく成長します。そのことを、今回のコロナ禍の中で改めて学ぶことになりました。私もPTAや地域の方々の活動から学んだ、「愛情と感謝」の気持ちを大切に、学校教育を全力で支えています。

負けじ魂

関市立下有知中学校 教諭 小川友也

「負けたくない気持ちはいっかり残っていた」

白痴病と闘い、絶望の淵から復活した水泳の池江璃花子選手の言葉だ。目標は二〇二四年のパリ五輪出場。「希望が輝くからこそ、辛くても頑張れる」と語る。自分に負けなかった池江選手を突き動かす原動力は、「目標と負けず嫌いの根性」である。生徒も私も「負けず嫌い」である。目標に向かい、生徒と共に熱

く燃えることが私は好きである。

生徒らの「負けじ魂」が生んだ数々の思い出がある。野球部最後の大会での劇的なサヨナラ勝ち、初めて掴んだ県大会への切符。合唱発表会での美しく響きのある歌声、全員で得た感動。どれも当日を迎えるために様々な出来事があり、苦難を乗り越えたドラマがあった。その中でも「負けてたまるか」と奮闘したが、大縄跳び一〇〇回超えをし、下有知ギネス記録を更新した体育祭である。

順調に物事が進んだわけではなく、何度も問題が起きた。ある時、失敗を笑い、ふざける仲間に対して一人が立ち上がった。「頑張っている仲間を見て、何も言わず逃げている自分に腹が立った」と声を張り上げ、涙ながらに仲間を訴えたのだ。

その後の話し合い。重い雰囲気が続く中、一人ずつ思いを打ち明けていった。自分の弱さを認め、さらけ出す仲間。仲間を厳しく指摘する仲間。目頭を熱くし、真剣に語る仲間と受け止める仲間。初めて本音で語り合い、初めて仲間と思いをぶつけ合った。この出来事が学級を変えた。

苦しい思いを共に分かち合った分、強い繋がりで結ばれた。「この仲間と最高の思いを味わいたい」という気持ちがあり、取組姿勢を変えた。思いが熱意となり、目標とする記録を大きく更新、感動を巻き起こした。自分たちが逆境から立ち上がり、必死になる姿に涙が出た。

誰もが「負けたくない心」をもち、「よりよい自分」になりたいと願っている。前向きに頑張る姿を見ると、自分も頑張らねばと思う。自分も負けていられないと思わされる。「負けじ魂」の伝染である。

今年は、コロナウイルス感染防止のため、様々な活動が中止、自粛となっている。そんな状況に悲観したくなる中、生徒も教師も保護者も、何ができるかを考え、できることに一杯取り組んでいる。逆境の中でこそ、本物の力が試される。「大変」なことに立ち向かい、乗り越えた時、「大きく変わる」ことができ、大きく成長できる。本校の生徒は、逆境に屈せず、希望を見出し、未来を創り上げるための「負けじ魂」をもっている。

鮭のきのこチーズ焼き

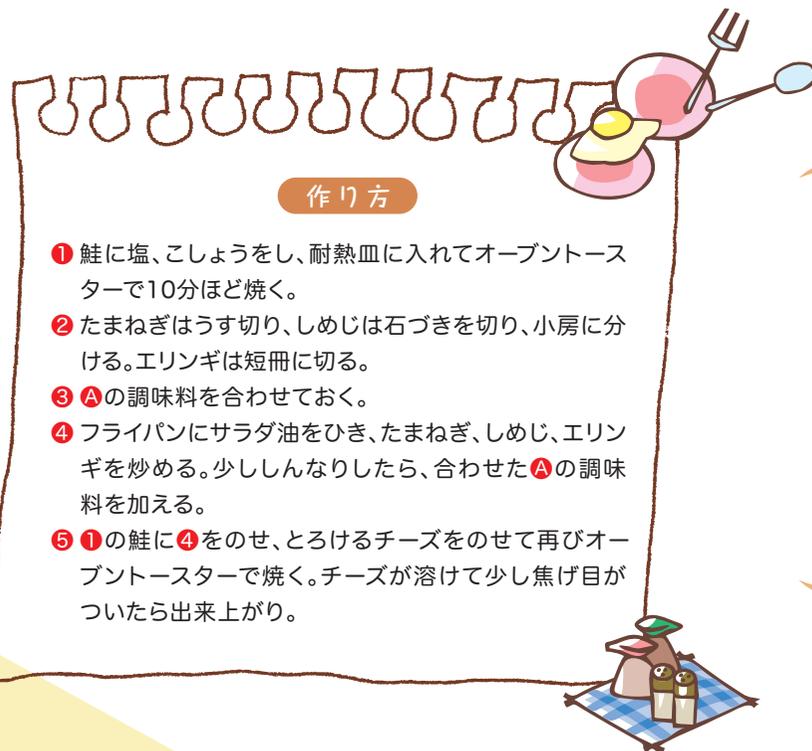


岐阜県学校栄養士会

秋から冬にかけて鮭やさば、さんまなどの魚がおいしい時期になります。今回は鮭を使い、きのこのうまみと相性の良いみそで味付けをしました。みそを甘酒で溶くことでみその風味が引き立ち、魚の苦手な子にも食べやすくなります。

きのこはしめじ、エリンギの他に、しいたけや舞茸などでもおいしく作れます。食物繊維たっぷりのきのここと、カルシウムたっぷりのチーズで、不足しがちな栄養素をとることができます。

また、鮭を焼いている間にきのこを炒めると、調理時間の短縮につながります。



作り方

- 1 鮭に塩、こしょうをし、耐熱皿に入れてオーブントースターで10分ほど焼く。
- 2 たまねぎはうす切り、しめじは石づきを切り、小房に分ける。エリンギは短冊に切る。
- 3 Aの調味料を合わせておく。
- 4 フライパンにサラダ油をひき、たまねぎ、しめじ、エリンギを炒める。少ししんなりしたら、合わせたAの調味料を加える。
- 5 1の鮭に4のをせ、とろけるチーズをのせて再びオーブントースターで焼く。チーズが溶けて少し焦げ目がついたら出来上がり。

材料

(材料4人分)

- 鮭切り身…………… 4切 (200g)
- 塩…………… 少々
- こしょう…………… 少々
- サラダ油…………… 小さじ1/2
- たまねぎ…………… 1/4個 (60g)
- しめじ…………… 1/4株 (20g)
- エリンギ…………… 小1本 (20g)
- A ミックスみそ…………… 小さじ1と1/2
- 甘酒…………… 小さじ2 (9g)
- とろけるチーズ…………… 40g

●栄養価(1人あたり)

- エネルギー……………122kcal
- たんぱく質……………14.1g
- 脂質……………5.3g
- カルシウム……………74mg
- 鉄……………0.3mg
- 亜鉛……………0.6mg
- ビタミンA……………32μgRE
- ビタミンB₁……………0.09mg
- ビタミンB₂……………0.18mg
- ビタミンC……………2mg
- 食物繊維……………0.6g
- 食塩相当量……………0.8g



先生すみません。そして、ありがとうございます

我が子は家でとはにかたしなく、さぞかし学校でも先生に迷惑をかけていることだろうと思います。しかし振り返れば、自分自身も優良な児童であったとはいえないため、我が子に指導はするものの「自分の子だしなあ」と半ば諦めの境地です。親子二代で、学校の先生には迷惑をかけっぱなしで申し訳ないといつも思っています。

先生たちは様々な個性をもった、まして私や我が子のような扱い辛い(と勝手に思っていますが)児童にも分け隔てなく接し、それによって学びと生活の集団たる学級、学年そして学校が正しく子どもたちの居場所となるよう、日々努力されています。

だからこそ、コロナの長い休校の果てに「早く学校に行きたい」という言葉が出るのでしょう。感謝の気持ちは絶えません、卒業まであと一年余、やっぱりまだ迷惑もかけると思っていますので、「ありがとう」と「すみません」を同時に言わせてください。

(高砂 知明・羽島市立竹鼻小学校 PTA会長)

絶対的な応援団

次男の通う中学校の卓球部の話です。

昨年夏の中体連の団体戦で県大会、東海大会と常連の強豪校に勝ち、全国大会に出場し一勝することができました。

夏休みの終わりまでずっと引率して下さった顧問の先生は、失礼ながら卓球は素人で、いつもの部活動でも初心者の子たちと一緒に練習するレベルです。

でも全国大会に行けたのは間違いなくこの顧問の先生のおかげです。練習内容や対戦順など、子どもたちを信じて任せて見守り、困った時には助言と責任を取って下さいました。試合会場では大きな声で、「大丈夫！大丈夫！」と応援し、ゲーム間の休憩では選手を団扇で扇ぎ気持ちを奮い立たせて、勝った時には誰よりも喜んでくれました。

どの試合も誰に対しても必ずこうやって応援して下さいました。負けたら次へ向かえるように熱い愛のある言葉を下さいました。絶対的な応援団である先生のいる安心感と、先生のために勝ちたい！という気持ちとで成し遂げた全国大会でした。

親子ともに最高の夏、最高の出会いでした。堀田先生、本当にありがとうございました。

(二村 栄子・羽島市立竹鼻中学校 PTA)

information

■作品を募集しています。

イラスト・なぞなぞ・逆さ言葉などの作品を募集しています。イラスト・絵手紙はハガキの裏面に描いてお送りください。ペンネームを使う場合にも、郵便番号、住所、学年と氏名を表面に記載してください。なぞなぞ・逆さ言葉は「親子ではてな」の回答とともにお送りください。

宛先はいずれも

〒500-8816 岐阜市菅原町3-3
岐阜県校長会館内「岐阜県PTA連合会・作品係」まで。

採用の方にはお礼をさしあげます。

先生！ありがとうございます！

保護者から先生へ贈る感謝の四〇〇字メッセージ

郷土の偉人杉原千畝氏ゆかりの町八百津町では、氏の功績を顕彰するとともに、氏の行動の根幹である人類愛や人権尊重の精神を学ぶ人道教育を大切にしています。町内の各学校には、それぞれ「杉原千畝の部屋」が設けられ、人道学習の中心的役割を果たしています。

そんな八百津町の東部にある潮南地区は、標高五〇〇〜七〇〇mの中山間地にあります。南には濃尾平野、北には飛騨山脈という平野と山地のちょうど中間で、本校の名称でもある「潮見」とは、伊勢湾が見えることから古来より名付けられている地名です。本校がある場所は、特に南西が大きく開け眺望が素晴らしく、天気の良い日には、今でも伊勢湾やその付近の様子が見られます。岐阜城や伊吹山が見えることもあります。学校には地域の方により展望台が設けられており、県内外からその眺望を楽しむために、たくさんの方々が来訪者があります。また、潮南地区は、まわりを木曾川などの河川に囲まれた急峻な地形から、かつては交通が不便でした。しかし、二〇〇九年に新旅足橋（今年八月に、高低差二二五mという日本一高いバンジージャンプ施設がオープンし話題になりました）が開通してからは、交通の不便さは大きく改善されています。豊かな自然に魅了され移住される方も増えてきました。

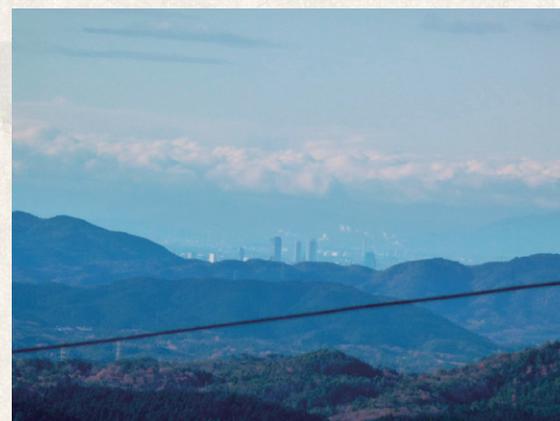
そんな潮南地区ですが、誇れるものは眺望の他、やはり豊かな自然です。生き物では、イノシシやニホンカモシカの生息地として有名で、ニホンカモシカは、時に校庭にも姿を見せるほどです。また、クロスズメバチ（一般的には「へボ」と呼ばれています）も多く生息しており、古くから、その巣を見つけて掘り出し、中にいる幼虫を貴重なタンパク源として食べる習慣がありました（今では高タンパクで滋養豊かな高級食材です）。さらには、掘り出した巣を箱に入れて飼い、巣を大きくすることも行われてきました。年に一回行われる「潮南へぼ祭り」では、巣の大きさを競い合うコンテストも行われています。

本校の児童は、中学年時に総合的な学習の時間の中でこうした生き物を中心に、ふるさとの豊かな自然を学びます。その際には、地域の方に講師になっていただき、生き物のことを教えていただきます。今では、こうした生き物は、本校の子どもたちにとっても身近な存在とはいえない状況になっています（ゲームやTV、PC、スマホなどが欠かせない存在に）、学びを通して、ふるさとの自然に愛着と誇りをもつことができるようになってきました。平成二十七年に児童が学校キャラクターを作成しましたが、中心となるモチーフとして選んだのはニホンカモシカでした。

これからも、地域の方から学びながら自分たちのふるさとに愛着と誇りをもつことのできる、そんな児童の育成に努めていきたいと思えます。



▲校庭に姿を見せたニホンカモシカ



▲本校の展望台からの眺望



▲本校の「杉原千畝の部屋」



▲全校に向けて学びを発表する児童



▲地域の方から「へボ」について学ぶ児童



潮見小学校
学校キャラクター
「シオミン」
平成27年度
児童公募により制定

ふるさとに愛着と誇りをもつ
児童の育成をめざして

私たちのPTA



長森中学校舎



成人教育・性教育



地域生活・資源回収



広報・広報誌



地域生活・地区懇談会



学年・高校見学



学年・お弁当の日パネル



保健体育・給食



はじめに

岐阜市立長森中学校は、創立七十四年目になります。歴史を紐解くと、昭和六十年前後の生徒数が二千近く在籍し、昭和六十三年に長森南中学校と分離した経緯もありました。その後も県内有数の大規模校として存在しています。今年度は、七八〇人の生徒でスタートしました。しかし、世界中に蔓延した感染症の影響を受け、令和二年度の始業が著しく遅れることとなりました。

本校では学校の教育目標、「立志 共創 自立」を生徒一人ひとりが常に意識しながら生活・実践し、日々実践の積み重ねにより自分の力として身に付けていけることを願っています。また今年度は、「安心して生活できる安全な学校」を中核に据え、新たに「自分を大切に」「仲間を大切に」「やるべきことをやり抜く」の三つを校訓として、長森中生徒と教職員が「チーム長森」となって実践していきたいと考えています。その姿を家庭や地域に随時発信することを心がけ、学校を保護者が信頼し、地域が応援したくなる学校を目指していきます。

PTA紹介

昨年度の長森中PTAは「楽しいPTA活動を！」をスローガンに掲げ、それぞれの執行委員会のメンバーが中心となり、楽しくPTA活動を進めてきました。保護者が笑顔で楽しく活動する姿が、子どもたちの健全育成につながりました。

PTA活動について（昨年度の活動内容）

○成人教育委員会

「共に知ろう、学ぼう」のスローガンのもと、家庭教育学級の企画、運営を担当しました。同世代の子をもつ親同士、共に学びながら交流を深めました。七月には一年生と保護者を対象に性教育講座を実施しました。「生」と「性」について愛情いっぱいのお話を聴き、

一人ひとりが命の大切さについて感じることでできる時間となりました。

○保健体育委員会

「親子で育てよう！豊かな心と健康な体」をスローガンに、年二回のエプロン補修や、給食試食会を実施し、子どもたちの心身の健康づくりをサポートしました。

○広報委員会

「未来につなげる広報」を目指し、年三回の広報誌『森』を発行しました。広報誌を作ることは大変でしたが、取材を通して先生方や生徒の皆さんがとても近くに感じられるようになったのが、一番の喜びとなりました。

○地域生活委員会

「地域と共に子どもの成長を見守る」をスローガンに、春と秋のあいさつ運動、リサイクル活動、地区懇談会の企画などを実施しました。子どもたちと一緒に取り組む活動はとても楽しく、頼もしくたくましい中学生の存在に気付くことができました。

○学年委員会

一年生は「職業講話」、二年生は「お弁当の日」、三年生は「高校見学会」を企画。年二回の学年懇談会の内容調整も行いました。

おわりに

長森中PTAでは毎年、多くの地域の方、保護者、教職員が力を合わせて、朝の旗当番や挨拶運動、リサイクル活動など子どもたちのために一生懸命活動しています。今後もPTA役員をはじめ、多くの関係者の理解と協力を得ながら楽しくPTA活動に取り組んで参ります。



がんばる子らの 汗と笑顔と眼差しと

関市立緑ヶ丘中学校



入学式

200名以上の生徒と保護者ができるだけ密を避け、入学式が実施できました。



飛沫飛散防止シールド

給食中はシールドを使用しています。必要に応じて音楽の授業などでも使用しています。



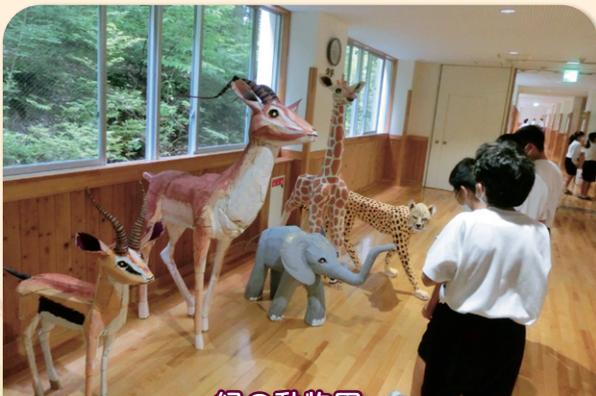
生徒会認証式

校長室で行った式を、各教室にビデオで流しました。井島大翔生徒会長の公約「ONLY1で楽しい緑中」で学校をリードしていきます。



コロナ禍での授業再開

ソーシャルディスタンスを保ちながらも、学び合いを大切に授業を継続していきます。



緑の動物園

美術科教諭が休校中に段ボールを利用して作成した動物たちが、生徒の心をほっと和ませています。



地元企業と連携したナイフ制作

地元の企業と連携して、美術で制作した木製ナイフを、金属のナイフに商品化していただけました。生徒の夢が広がりました。